

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1173201102
法人名	有限会社 関根
事業所名	グループホーム関根塾
所在地	〒355-0303 埼玉県比企郡小川町奈良梨346-1 (電話) 0493-71-5011

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわほりクリニック、いとう歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、自然環境に恵まれた郊外にあり、1ユニットで平屋建ての家庭的な雰囲気である。協力病院との連携体制がとれており、重度化した場合や終末期の方針が明確になっていて、医療・看取りの契約の上に、ターミナルケアを実践している。また、利用者の個々の状態に応じて、排泄や食事などへの対応がきめ細かく明記されている。家族との関係も良好であり、月に1回は家族へ利用者の状況報告を行い、家族会も組織されている。職員にとっても働きやすい職場環境を作っており、ホーム開設以来の職員も多く、退職者が少ない。日々の生活では、特に決められた日課はなく、利用者一人ひとりのペースに合わせて、その日の利用者の状態や意向を尊重しながら対応している。また、重要事項説明書の中にリスク管理の項目があり、家族の同意の上に昼間は施設していない。利用者は、家庭生活の延長で行動制限なく自由に生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価における改善項目は挙げられていないが、評価の結果については全職員で情報を共有し、今後に役立てるようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全職員に自己評価の項目について記入してもらい、全職員が自己評価の内容や意義を理解できるように、職員の意思統一を図っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、3か月に1回の割合で実施されている。会議では、ホームの行事の連絡や利用者の状況等の報告を行っており、今後は、会議の進め方や討議内容についてメンバーで話し合って検討していくこととしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会が組織されており、家族の意見があれば家族会の会員が出席している運営推進会議で反映することができる。また、家族の面会も多く、面会時に話を聞くようにしているほか、苦情担当者も明確になっており、月に1回は利用者の生活状況を書面で各家族へ報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りや行事には、利用者の状態を考慮して負担にならない範囲で積極的に参加している。また、近所の農家の方が野菜を持って来てくれたり、一緒に野菜等を作るなど、交流を図りながら地域との連携作りをしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスであることを踏まえて、利用者一人ひとりの人格を尊重し、安らぎと喜びのある家庭を共に築くことを理念としている。理念の中に家庭という表現があるように、ホームは利用者にとっての家庭であるという考えであり、地域の中で安心した暮らしを継続的に支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し日々の実践の中で活かせるように取り組んでいる。職員の採用研修時や月1回の職員会議の場で、ホームの理念・方針を理解するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の隣組に加入しており、近隣のお祭りやイベントには利用者の負担のない範囲で積極的に参加している。また、近所の農家の方が野菜を持ってきてくれたり、近所の人たちと一緒に野菜などを栽培するなどして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、自己評価の用紙をコピーして全職員に配布し評価を行ってもらい、管理者が集約している。その過程を通して、全職員が評価の意義や目的を理解している。外部評価の結果についても、全職員で話し合いを持って、改善項目があれば今後役に立てるように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回の割合で、年に4回開催されている。会議では、ホームの行事の連絡や利用者の状況の報告、運営や処遇の課題などを議題に挙げて話し合っている。メンバーとは頻りに顔を合わせており、今後は内容の充実に向けて、会議の進め方や討議内容について意見交換をしながら検討していくこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、町の担当者が利用者の生活状況を観察に来訪したり、ホームからも利用者の入退居に関して担当者に報告するなど行き来している。生活保護を受給している利用者もあり、町の担当者とは連携をとりながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活状況については、面会時に家族に話したり、毎月それぞれの家族へ利用料請求書と一緒に生活ぶりを書面で送付している。また、管理者が利用者一人ひとりの個別の経過記録を整理しまとめており、家族の希望があれば閲覧できるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織されており、意見がある場合は、家族会の会員がメンバーとなっている運営推進会議で反映できるようにしている。また、苦情担当者も明確になっており、重要事項説明書に他の相談窓口についても明記されている。ホームに対して意見や不満があれば、いつでも意見が言える体制にしてある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの職員も多く、退職する職員が少ないので利用者への影響はない。管理者が毎日職員と会話しながら、職員が気持ちよく働けるように配慮しており、職員が働きやすい職場環境を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修としては、月1回の職員会議の場でテーマを設定し、各種のマニュアルを用いて勉強会を実施している。また、グループホーム協議会などで実施される外部研修についても、職員は必要に応じて研修に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会の北部支部の研修に参加しており、同業者との情報交換を行っている。以前は、他のグループホームで職員の研修を行っていたこともあり、地域の同業者とのネットワーク作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>通所のサービスはないため病院から直接ホームへ来る場合もあるが、事前に訪問を行ったりしながら可能な範囲で利用者の情報を把握するように努めている。また、入居前には見学に来てもらったり、ホームの雰囲気に馴染めるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に過ごす時間を大切に、利用者と同じ目線で話し合える関係を築いている。編み物など利用者の得意とすることを教えてもらったり、一緒に野菜作りなどをしながら共に支えあう関係づくりをこころがけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、利用者の意向や希望を確認し、入居後の生活に可能な範囲で反映できるように努めている。職員は、利用者の思いの把握とともに、体調や意向を尊重した支援に努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づいて、利用者本人や家族の意向を確認した上で、主治医や職員と話し合いながら介護計画を作成している。面会にあまり来られない家族に対しては、電話で意向を確認するようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に基づき実践した経過をモニタリングしており、目標に対しての結果も評価している。定期的に介護計画の見直しを行い、利用者の状態に変化があれば、家族や主治医の意見を聞きながら随時見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの協力病院への通院介助や入退院の支援、買い物など、ホームとして出来る範囲の体制を整え、本人、家族の状況や要望に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の了解の上で、ホームの協力病院の医師を主治医としている。主治医とは連携が密にとられており、頻繁に往診してくれるので、利用者本人や家族、そして職員の安心につながっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、医療・看取りについて書面で説明し、同意書を作成している。協力病院との連携体制がとれており、重度化した場合や終末期の方針が明確になっている。また、終末期を迎えた場合は、再度家族とホームの方針について話し合いを行い、確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録の開示については、本人及び家族からの同意を得て行っており、個人情報の取り扱いに配慮している。職員の言葉かけでは、利用者の人格を尊重し優しく丁寧にゆっくりと行うようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは決まった日課は作らず、食事の時間以外は基本的に自由に生活している。利用者の動作に時間がかかっても、その方のペースでできるように職員は見守りを行い、一人ひとりの意向を尊重しながら希望にそった支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体的な状況から、一緒に食事の準備などを行える方は少ないが、テーブル拭きなどできることは手伝わってもらっている。職員は利用者と同じテーブルで、声をかけながら一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム側が入浴日や時間帯を決めることはなく、利用者の希望があればいつでも入浴ができるように、朝からお風呂を準備している。お風呂の嫌いな利用者には、衛生管理上の観点から最低週に2回は入浴してもらえるように声かけをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや能力に応じて、テーブル拭きなどその人に合った役割を持ってもらうことで、生活意欲を引き出すように支援している。決して無理強いすることなく、利用者本人の自発性に任せて行ってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化に伴い、外出できる方が少なくなってきた。職員はできるだけ声をかけて、天気の良い日などには散歩や買い物へ一緒に付き添って出かけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、夜間は防犯上施錠しているが、昼間は鍵をかけてはいない。外へ出たがる利用者には、職員が付き添って近所を散歩したりしている。ホームの周りは自然に囲まれており、職員も目を配っている。また、重要事項説明書の中で昼間は鍵をかけないことを明記し家族の理解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が中心となり、消防計画に基づいて避難訓練を実施している。また、隣りの工場の人や地域住民へも協力を働きかけ、災害時における地域住民との関係づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の状況が記入された食事対応表が作成されており、きめ細かく対応している。毎食ごとに食事摂取量を記録し、職員も一緒に食事をとりながら食事の状況を把握するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	関越自動車道に隣接しているが、車の騒音はそれほどなく、ホーム内には利用者の馴染みの音楽を流している。共用スペースには、行事の飾り付けがしてあり、季節感が味わえるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には入居前の使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらっている。利用者が安心して過ごせるよう、一人ひとりの希望や趣向を取り入れ、その人らしい居室づくりに配慮している。		